



カボチャ栽培における病害虫の防除対策

半促成カボチャ栽培では、被覆を開放する頃より、うどんこ病やべと病、疫病などの病害や、アブラムシ類、コナジラミ類、ウリハムシなど害虫類の発生が増加してきます。降雨日が多く多湿条件が続けば疫病やべと病などが多くなり、一方で晴天が続くとうどんこ病やアブラムシ類、コナジラミ類などが多く発生する傾向があります。

多発生してからは薬剤防除の効果が劣りますので、早期発見、早期防除に努めて下さい。

特に疫病では果実が発生すると大きな減収につながりますので、予防散布を行います。



写真1 うどんこ病



写真2 アブラムシ類



写真3 ウリハムシ



防除対策のポイント

- 適切な整枝に努めます。被覆を開放したら予防散布を検討し、十分量の薬液で、葉裏や下葉、株元にもよくかかるように散布します。
- 降雨が続くようなときは、圃場の排水を促す溝などを掘り、浸冠水や停滞水を回避して下さい。
- 果実は直接土に接しないように、着果後20日目頃から順次に敷物などを行います。



表1 カボチャ うどんこ病の主な防除薬剤

(令和6年4月17日現在)

薬剤名	希釈倍数	使用時期 / 使用回数	分類 ※1
イオウフロアブル	500倍	発病前～発病初期 / —	M2
シグナムWDG	1,500～2,000倍	収穫前日まで / 3回以内	7と11
トリフミン水和剤	3,000～5,000倍	収穫前日まで / 5回以内	3
フルピカフロアブル	2,000～3,000倍	収穫前日まで / 4回以内	9
モレスタン水和剤	2,000～4,000倍	収穫3日前まで / 3回以内	M10
ダコニール1000 ※2	1,000倍	収穫7日前まで / 3回以内	M5
ベルコート水和剤	1,000～2,000倍	収穫7日前まで / 4回以内	M7

※1：各表の分類欄は、FRACまたはIRACコードを記載。(コードが2つは混合剤)。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避ける。

※2：有効成分TPNが含まれているので、総使用回数(3回)を超えないように使用する。

表2 カボチャ べと病、疫病の主な防除薬剤

(令和6年4月17日現在)

対象病害	薬剤名	希釈倍数	使用時期 / 使用回数	分類 ※1
○ ○	アリエッティ水和剤	400～800倍	収穫前日まで / 3回以内	P7
○ ○	ランマンフロアブル	2,000倍	収穫前日まで / 3回以内	21
○ ○	ダコニール1000 ※2	1,000倍	収穫7日前まで / 3回以内	M5
○ ○	フォリオゴールド ※2	1,000倍	収穫7日前まで / 3回以内	4とM5
○ ○	プロポーズ顆粒水和剤 ※2	1,000倍	収穫7日前まで / 3回以内	40とM5
○ ○	ペンコゼブ(ジマンダイセン)水和剤	600倍	収穫21日前まで / 2回以内	M3

表3 カボチャ アブラムシ類、コナジラミ類、ウリハムシの主な防除薬剤

(令和6年4月17日現在)

対象害虫			薬剤名	希釈倍数	使用時期 / 使用回数	分類 ※1
アブラムシ類	コナジラミ類	ウリハムシ				
○	○		コルト顆粒水和剤	4,000倍	収穫前日まで / 3回以内	9B
	○	○	トレボン乳剤	1,000倍	収穫前日まで / 3回以内	3A
○		○	モスピラン顆粒水溶剤	2,000～4,000倍	収穫前日まで / 2回以内	4A
	○		サンマイトフロアブル	1,000～1,500倍	収穫3日前まで / 2回以内	21A
○	○		モベントフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで / 3回以内	23

■ 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

■ 営農 NEWS は JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。